



公衆衛生修士(MPH)の学位取得
 多彩な公衆衛生科目と充実した講義

本専攻の目的

- 国民や地域住民、患者も含めた広範な人々の健康の維持、増進、回復および生活の質(QOL)の改善に寄与する最先端の研究の推進
- 公衆衛生領域で指導的および実践的役割を果たす高度専門職業人の養成

卒業生進路先(2007-2015)

進路先	%
医療機関 (医師等)	24.5
行政・独法・国連機関	12.2
NGO・シンクタンク・企業	18.6
大学・研究所 (教員・研究者)	9.3
進学 (博士課程)	35

* 未定の人除く

専攻の構成と授業科目

- ◆ コースワーク・フィールドワークの重視→インターン
- ◆ 講義・演習・実習の組み合わせ
- ◆ 2年コースと1年コース (定員計30人)

SPH生の研究テーマ例

- DPCデータベースを用いた臨床研究
- 保健医療専門職の価値観の相違
- 産科領域におけるビックデータや機械学習技術を用いた新知見の探索
- 認知症の人の人生や生活に関して
- 医療とAIとモデリング
- 自殺に関する社会要因について
- ウイルス性肝炎に関するヘルスコミュニケーション

東大SPH志望動機 (一部)

- 臨床研究や疫学を系統的に学べたから
- パブリックヘルスの観点が必須だと感じたから
- 教育コンテンツが充実していたから
- 自分の進みたい分野のtop runnerの教室があるから
- 学費が安かったから

SPH 11期生プロフィール (有効回答数30/32)

入学前の職	人数
医師	16
健康総合科学科学生	5
看護師・薬剤師・保健師・獣医師・新聞記者・会社員・他大学(筑波大社会国際学群・慶応大理工学部・東大教育学部)	各1名

入学前までの職歴	人数	%
職歴なし	8	27
2年未満	0	0
2年以上5年未満	4	13
5年以上10年未満	9	30
10年以上15年未満	5	17
15年以上	4	13

東大SPHの魅力 (一部)

- 一流の先生の講義が面白く、内容が豊富
- 先生がアツくて親切、生徒との距離が近い
- 様々なバックグラウンドを持つ同期と、グループワークで議論できる
- 皆意欲的に参加して、議論がはずむ
- 同窓会の連帯感や縦横の繋がりが強固
- 図書館やオンライン医学文献の充実

授業風景



グループワーク



余暇の活動

